TOPICS 1

元禄時代から活躍。石清水八幡宮の銅製雨水受水槽

石清水八幡宮（写真は修造中）

近年、災害時の防火用や非常飲料用として雨水受水槽への注目が高まっているが、京都府八幡市にある石清水八幡宮には元禄時代に作られた銅製雨水受水槽が現存している。
石清水八幡宮は、貞観元年（859年）に、時の清和天皇の命により建てられ、第15代応神天皇、比咩（ひめ）大神、神功皇后が祭られている。現在でも多くの参拝者が訪れる全国屈指の厄除け神社である。
銅製雨水受水槽は、社殿の3箇所にあり、社殿廻り塀屋根の樋を伝って雨水が溜まる仕組みになっている。受水槽の表面にある飾りには、「元禄六年」の文字が刻まれており、この前後に作られたようだ。本体は1mm程の厚さの銅板を接合して作られており、当時の板金・鍛金技術の水準の高さに驚かされる。石清水八幡宮はこのほかにも、織田信長が奉納した日本最古の銅樋「黄金樋」があることでも知られている。

銅製雨水受水槽

TOPICS 2

建物全体を銅が覆う老人医療施設「くぼ」

広島県尾道市で医療に携わる高亀医院が1994年に開設した老人保健医療施設「くぼ」には、建物全体に銅が使用されている。正方形に近い4階建てのリハビリ棟。この屋根と壁面、あわせて約500平方メートルに銅板が使用された。
本誌では、設立当初に同施設を取材しているが、10年あまりが経過した現在、銅屋根、銅壁にはうっすらと緑青がふいているのが見られた。ほどよい経年変化が進んでおり、医療施設にふさわしい落ち着いた雰囲気を醸し出している。
また、同施設は海岸線近くに立地し、金属建築にとっては厳しい環境であるにも関わらず、自然な経年変化が進んでいることも特長である。このような経年変化がさらに進み、緑青に覆われた趣深い施設となることが待たれる。

銅屋根・銅壁の様子

施設全景

編集手帖

●カバーロマンとリレー随想…奇しくも“緑青”がテーマ。筆者お二人とも「自然の緑青」の魅力を魅力十分に表現。ご一読ください。●ルポルタージュ…我が国・銅製錬技術が次世代につなぐエコタウン実現。エコアイランドなおしまプラン、ご一読、ご一見を。●ユーザー訪問…銅釜へのこだわりがなんと!炊飯器工場の向かいの水田地帯で田植えから収穫までの米作りを社員全員で行っているとのこと。農家の米づくりの苦労・想い（心）を炊飯器作りに生かす。―そこのあぜ道を歩いて、ものづくりの気合に感動。●本号もたくさんの注目取材があります。ぜひお目通しを!また明日からカパーロードの旅が続きます。

編集デスク　斉藤久嘉（日本銅センター）

「銅」誌編集委員会

〈委員〉鉱山／増田勝彦（三菱マテリアル（株））、高橋渉（パンパシフィック・カッパー（株））、永田禎彦（日本鉱業協会）　伸銅／堀田修司（（株）神戸製鋼所）、秋元伸二（古河電気工業（株））、松阪和則（日本伸銅協会）　電線／湯谷彰（（株）フジクラ）、宮田充（（社）日本電線工業会）